

スーパーマーケット景気動向調査

2020年4月調査結果（3月実績）
（2020年4月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

現状判断は改善継続も、見通し判断は小幅に悪化

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から+2.9の50.8、見通し判断は前月から-2.1の36.9となり、現状判断DIは改善、見通し判断は小幅に悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に上昇し、二桁プラス値となった。小中高一斉休校や在宅勤務の増加などで内食需要が高まり、客単価や来客数などすべてのDIがプラスとなった。

カテゴリ動向調査では、行楽や行事の中止、バラ売り販売自粛の動きがあった惣菜カテゴリDIはマイナスとなったが、それ以外のカテゴリDIは二桁のプラス値となった。なかでも買い置きが可能なカテゴリ、生鮮品では畜産、そして日配や一般食品カテゴリの数値が大きくなった。

景況感調査は、景気判断DIや消費者購買意欲DIの現状判断が大きく改善し、特に消費者購買意欲DIは67.2まで上昇した。その一方で、店舗周辺地域景気判断DIは大幅な悪化をみせるなど、景気の先行きには不安が拡大している。（長期傾向についてはp11参照）

新型コロナウイルスの影響が続くなか、食のライフラインとして、在宅率の高まりによる内食需要を支える存在として位置付けられることで、営業継続に向けた努力に対しても、社会からの理解が広がっている。影響が長期化することも予想されるなか、地域インフラとして、苦境に立たされる外食店などと消費者との接点としての要望も高まると予想される。需要増による人手不足と従業員の疲弊、感染予防対策強化が求められる中での対応は容易ではないが、今後も地域を支える取り組みを期待したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：50.8 (+2.9) 前月：47.9	消費者購買意欲DI 当月：67.2 (+11.3) 前月：55.9	周辺地域 競合状況DI 当月：44.6 (+1.1) 前月：43.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：38.9 (-5.3) 前月：44.2
--	--	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：36.9 (-2.1) 前月：39.0	消費者購買意欲DI 当月：52.7 (+7.8) 前月：44.9	周辺地域 競合状況DI 当月：43.0 (+1.4) 前月：41.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：32.4 (-7.0) 前月：39.4
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：18.5 (+3.1) 前月：15.4	客単価DI 当月：18.9 (+13.8) 前月：5.1	来客数DI 当月：6.4 (-1.6) 前月：8.0	
収益DI 当月：16.7 (+4.4) 前月：12.3	販売価格DI 当月：5.4 (+3.3) 前月：2.1	生鮮品仕入原価DI 当月：4.9 (+2.0) 前月：2.9	食品仕入原価DI 当月：6.5 (+1.2) 前月：5.3

カテゴリ動向

青果DI 当月：13.4 (+15.3) 前月：-1.9	水産DI 当月：10.5 (+0.1) 前月：10.4	畜産DI 当月：23.3 (+4.3) 前月：19.0	
惣菜DI 当月：-8.7 (-21.2) 前月：12.5	日配DI 当月：22.0 (+5.0) 前月：17.0	一般食品DI 当月：28.5 (+11.2) 前月：17.3	非食品DI 当月：23.8 (-2.4) 前月：26.2

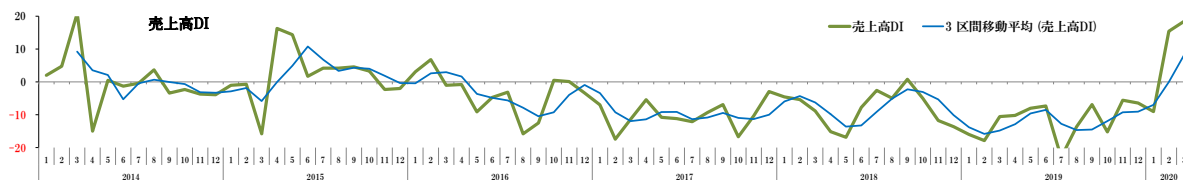
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月さらに上昇し、2ヵ月連続で大幅なプラス値を記録

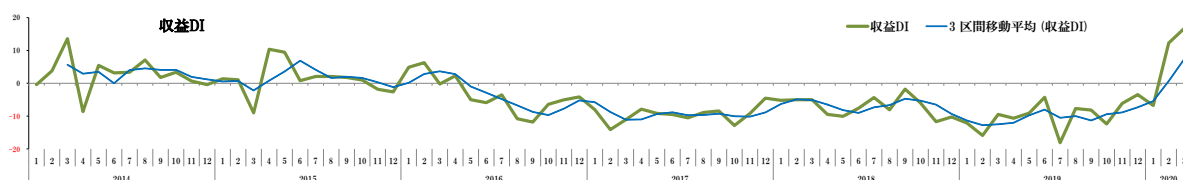
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	2.8	13.5	20.8	44.9	18.0	15.4
売上高 (当月)	6.4	10.8	12.7	42.7	27.4	18.5



2. 収益DI

当月さらに上昇し、2ヵ月連続で大幅なプラス値を記録

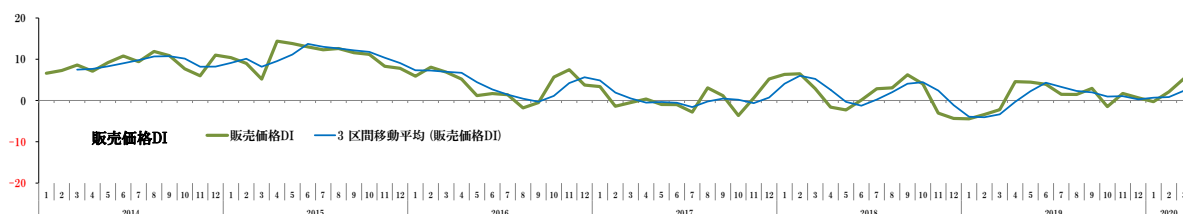
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	4.6	12.6	27.4	40.0	15.4	12.3
収益 (当月)	4.5	13.0	13.0	50.0	19.5	16.7



3. 販売価格DI

当月やや上昇し、プラス幅を拡大

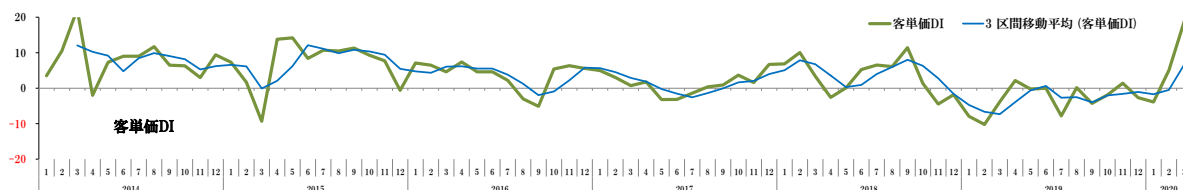
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	10.7	68.9	19.2	0.6	2.1
販売価格 (当月)	0.6	6.4	67.5	21.7	3.8	5.4



4. 客単価DI

当月大幅に上昇し、二桁水準を記録

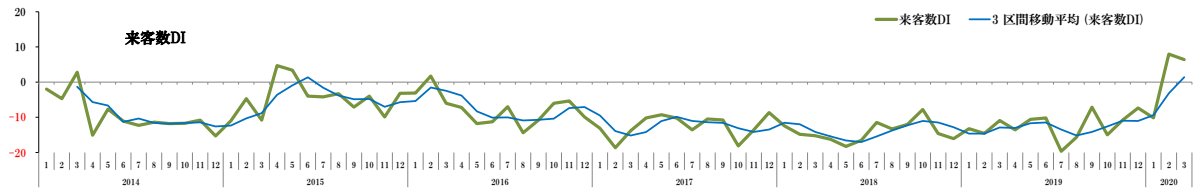
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	19.2	42.9	33.9	3.4	5.1
客単価 (当月)	1.3	10.9	18.6	49.4	19.9	18.9



5. 来客数 DI

当月わずかに減少も、2ヵ月連続のプラス

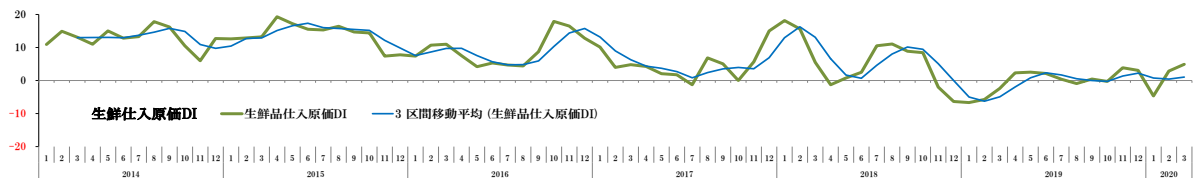
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	5.1	17.6	27.3	40.3	9.7	8.0
来客数 (当月)	7.7	18.6	23.7	40.4	9.6	6.4



6. 生鮮仕入原価 DI

当月小幅に上昇し、プラス水準を維持

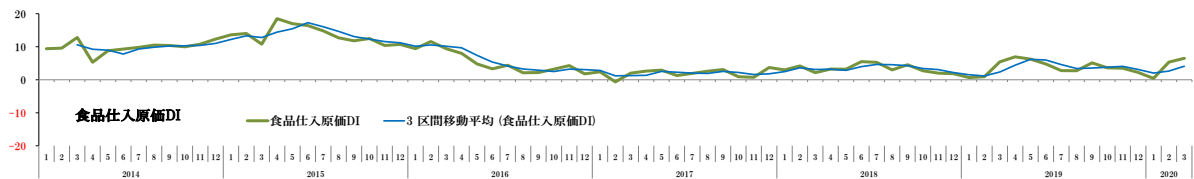
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	12.6	63.8	18.4	4.0	2.9
生鮮仕入原価 (当月)	2.0	13.1	52.3	28.8	3.9	4.9



7. 食品仕入原価 DI

当月小幅に上昇し、プラス水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.3	4.0	68.8	19.7	5.2	5.3
食品仕入原価 (当月)	1.9	4.5	66.2	20.1	7.1	6.5

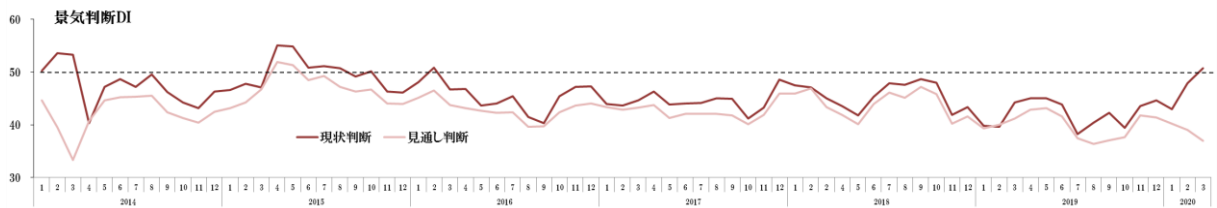


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は改善も、見通し判断は小幅に悪化

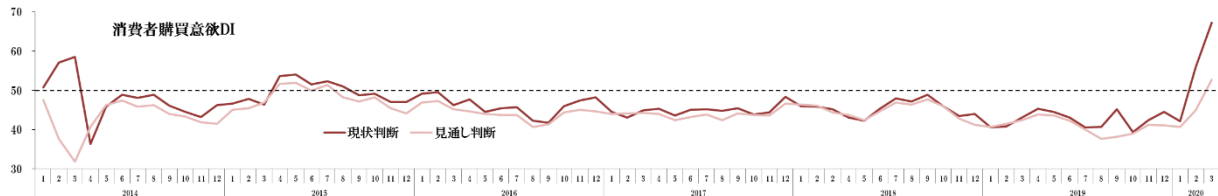
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	5.1	25.3	44.9	22.5	2.2	47.9
【現状】景気判断 (当月)	9.5	18.4	37.3	29.1	5.7	50.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	10.1	37.1	39.9	12.4	0.6	39.0
【見通し】景気判断 (当月)	18.5	32.5	35.0	10.8	3.2	36.9



2. 消費者購買意欲 DI

現状は大幅に改善し過去最高水準を更新、見通し判断も大幅に改善

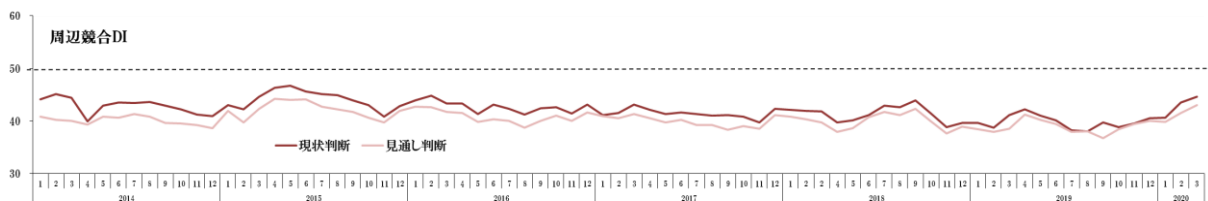
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	18.5	42.1	32.0	6.2	55.9
【現状】購買意欲 (当月)	4.4	7.6	21.5	47.5	19.0	67.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	4.5	30.3	46.6	18.0	0.6	44.9
【見通し】購買意欲 (当月)	5.7	20.3	40.5	24.7	8.9	52.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともに小幅に改善

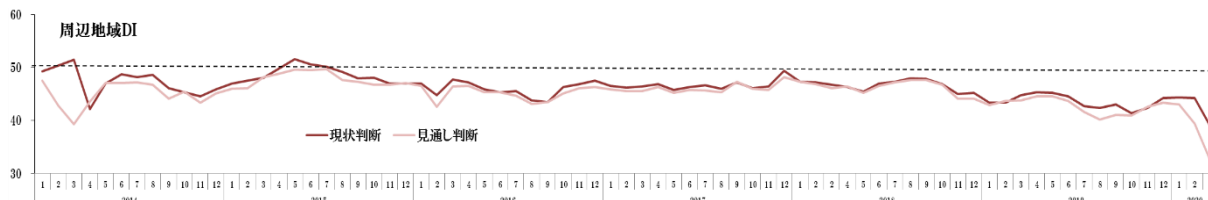
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.1	21.3	68.5	4.5	0.6	43.5
【現状】競合状況 (当月)	5.1	16.5	74.7	2.5	1.3	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	7.3	23.0	65.7	3.9	0.0	41.6
【見通し】競合状況 (当月)	6.4	20.4	68.8	3.8	0.6	43.0



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に悪化

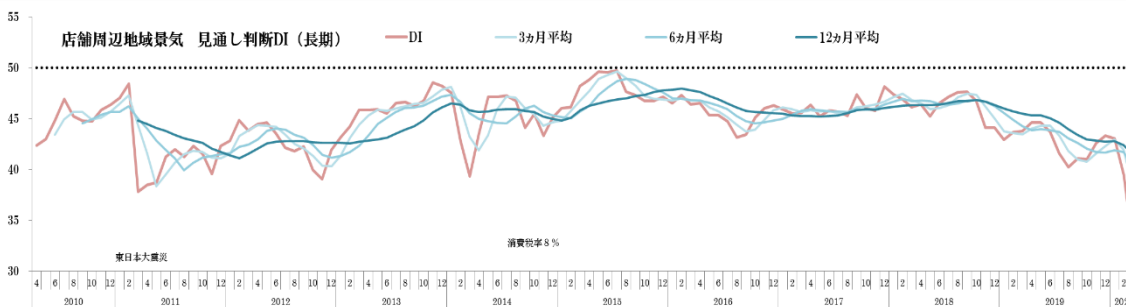
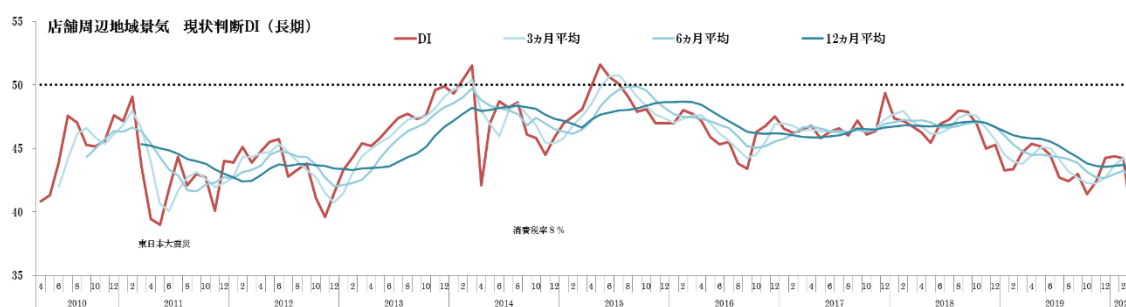
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	3.4	23.7	65.5	7.3	0.0	44.2
【現状】地域景気 (当月)	11.4	33.5	43.7	10.8	0.6	38.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	9.0	30.5	54.2	6.2	0.0	39.4
【見通し】地域景気 (当月)	22.8	30.4	41.8	4.4	0.6	32.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

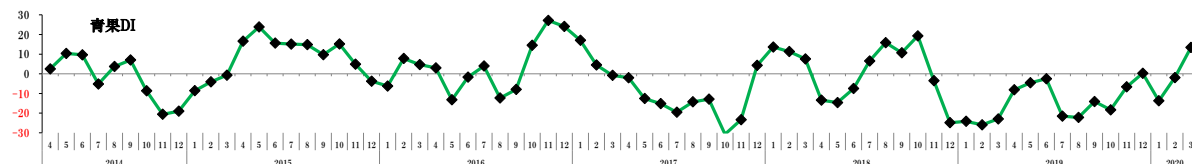
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月から新型コロナウイルスの影響により、大幅に低下した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：13.4（好調）

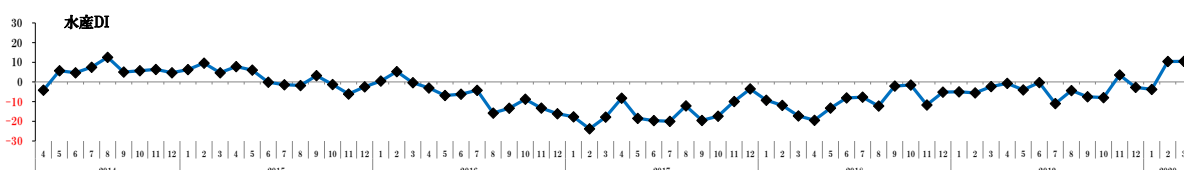
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.3	31.2	32.4	28.2	2.9	-1.9
青果（当月）	6.0	10.1	26.2	39.6	18.1	13.4



中旬まで青果相場は安値で推移していたが、下旬から上昇した地域が多かった。新型コロナウイルスの影響により内食需要が高まっており売上を底上げした。気温が高く、サラダ関連野菜は動きがよかった。日持ちするジャガイモや玉ねぎに、カレー用のニンジン、炒め物用食材としてピーマンなどの販売数量が増加。免疫力アップとして報道のあった長芋に特需が発生した店舗もみられた。果物類では、輸入果物のバナナやオレンジなどが好調、国産果物ではイチゴやりんごが好調となった。

2. 水産DI：10.5（好調）

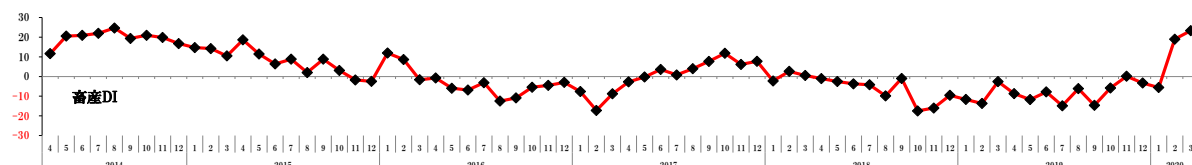
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	2.9	14.7	32.4	37.6	12.4	10.4
水産（当月）	5.3	14.7	26.7	39.3	14.0	10.5



新型コロナウイルスの影響により、丸魚販売を中止する店舗も。保存の利く冷凍魚や加工品が好調となった一方で、刺身などの生食用は伸び悩んだ。春商材である海藻類やアサリが好調とのコメントが多かった。ひな祭り関連のちらしや手巻き寿司用商材は好調だった。ほたるいか大豊漁で値ごろとなり好調とのコメントがみられたが、花見や行楽自粛の影響で、つまみ用の珍味類は不振となった。

3. 畜産DI：23.3（かなり好調）

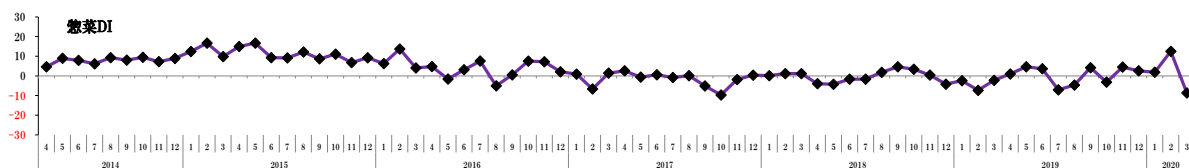
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	0.6	9.9	21.6	48.5	19.3	19.0
畜産（当月）	1.3	8.6	21.2	33.1	35.8	23.3



新型コロナウイルスの影響による内食需要の高まりを受け、牛・豚・鶏いずれも好調であり、なかでも冷凍保存目的の購入向け大容量パックや、簡便調理用の味付け商材が好調となった。相場が低下傾向にあることで、国産の動きがよいとのコメントもみられた。ハムやソーセージなどにも、一部にはまとめ買いの動きがみられた。高い気温により、焼肉用商材は好調となったが、すき焼き、鍋用の食材は動きが悪かった。

4. 惣菜DI：-8.7（やや不調）

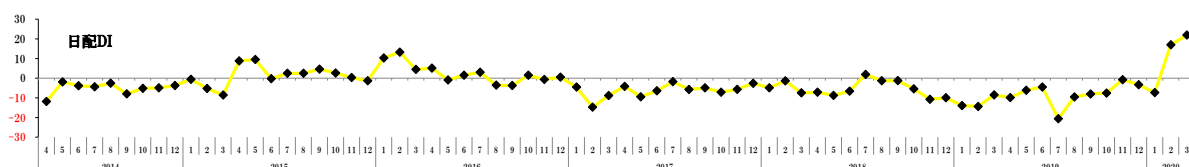
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.9	13.5	27.1	43.5	12.9	12.5
惣菜（当月）	10.7	34.7	36.0	16.0	2.7	-8.7



一斉休校による昼食ニーズの増加による需要増加はあったものの、花見や行楽の自粛、卒業式や謝恩会、送別会など会合の中止によるオードブルや弁当需要の激減、天ぷらや揚げ物などのバラ売り販売を中止しパック販売を行うことで製造量も増やせず、在宅勤務の増加により仕事帰りの惣菜購入ニーズが減少した店舗もみられ、全体としてはやや不調となった。人手不足に苦慮した店舗も多くみられた。

5. 日配DI：22.0（かなり好調）

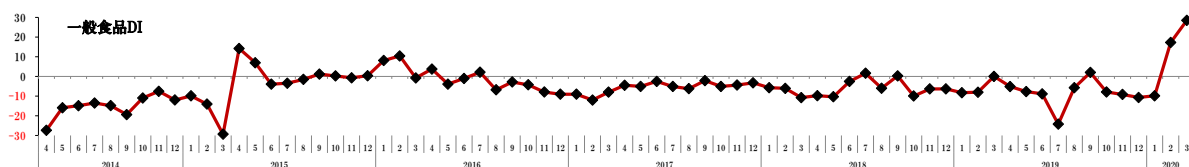
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.4	7.7	23.7	52.1	14.2	17.0
日配（当月）	1.4	7.4	18.9	46.6	25.7	22.0



新型コロナウイルスの影響による内食需要や学校給食の代替需要として、牛乳や卵、麺類やパン類、冷凍食品が好調で、買いだめ行動もみられた。納豆やヨーグルト、キムチなどの発酵食品、乳酸菌関連商品の売上が好調となっており、一部では欠品も発生した。高い気温により飲料類の動きもよかった。

6. 一般食品：28.5（かなり好調）

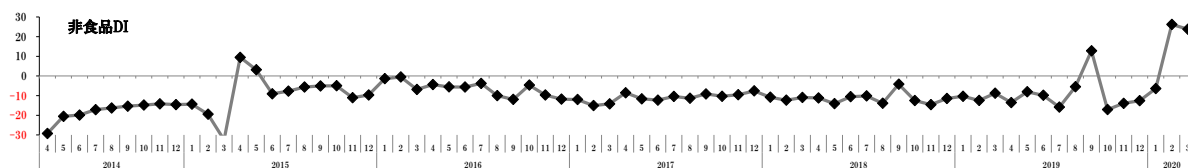
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.8	10.5	24.0	44.4	19.3	17.3
一般食品（当月）	0.7	7.3	11.3	38.7	42.0	28.5



新型コロナウイルスの影響による内食需要増が売上げを底上げし、ほとんどの食品で売上げが好調。特に備蓄向き、簡便調理用の食品が好調となった。米類、パスタ・パスタソース、小麦粉・ホットケーキミックスなど粉製品、袋ラーメンの5食パック、カップ麺、シリアル、カレー・レトルトなどが挙げられる。飲料では2リットルPETボトルの動きがよかった。一部の食品は品薄、店頭欠品もみられた。酒類・珍味も、宴会の自粛や在宅勤務などによる「家飲み」需要が高まり好調となった。

7. 非食品 DI：23.8（かなり好調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	2.4	5.5	15.2	38.8	38.2	26.2
非食品（当月）	4.1	6.1	17.7	34.7	37.4	23.8



新型コロナウイルスの影響により、マスクを中心にハンドソープ、除菌関連の衛生用品が品薄となっており、点数制限を実施。また、ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品に対しても買いだめが発生、店頭在庫の回復に時間を要し、機会ロスも発生した。従業員が店頭や電話での入荷問い合わせ対応、開店前の行列等に苦慮したという声も目立った。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2020年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 新型コロナウイルスによる需要の高まり
2. 小中高一斉休校による影響
3. イベント・行楽中止の影響

（参考）2019年4月調査（3月実績）キーワード TOP3

1. 日曜日が一日多い
2. 青果相場安
3. 消費の二極化

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 158 社
 2月実績確報版 178 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp